

土木系学生による コンクリートカヌー大会 開催報告



2010年8月28日土曜日、土木系学生によるコンクリートカヌー大会が開催された。本大会は国交省関東地方整備局ならびに開催地である戸田市のご後援を

いただいで関東支部が主催しているもので、学生がセメント・コンクリート系材料で手づくりしたカヌーの製作技術と漕艇技術を競うものである。第16回となる今大会は連日の猛暑が続くなか、会場の荒川調整池(彩湖)に過去最大タイの37チームが集結した。内訳は大学・高専が11校12チーム、高校が19校25チームである。

レースに先立って主催者によるカヌーの安



写真1 史上最速タイムで優勝した宇都宮大学

全性チェックが行われた後、組み合わせ抽選進水テストが行われた。年々参加校のカヌー製作技術が向上しており、接戦かつ高レベルなレースが予感された。

レースは全長300mのコースを6〜7艇で競争し、予選、敗者復活戦、準決勝、決勝の合計11レースが行われた。審査はレース結果に加えて、事前提出された資料、実際のカヌーの出来栄や大会当日会場に展示されるプレゼンテーションパネルの評価を加算して行われる。出来栄やパネルの評価は参加各校による投票も加味して行われた。

大会の結果は下記の通りであった。

・総合優勝・・・宇都宮大学(栃木県)

艇名BLACK PEARL

決勝タイム1分56秒

・総合準優勝・・・祐誠高等学校(福岡県)

艇名Honey Hawk

・総合3位・・・祐誠高等学校(福岡県)

艇名Harry Hawk

・高校の部優勝・・・大曲工業高等学校(秋田県)

艇名Majestic-RK

・技術賞(大学)・・・宇都宮大学

艇名BLACK PEARL

・技術賞(高校)・・・桜井高等学校(富山県)

艇名NOAH

・特別賞・・・山形工業高等学校

艇名桃色②

宇都宮大学は昨年に続いての連覇で、カヌーと選手の漕艇力がマッチして直進性が高いことが印象的であった。また、2分を切る大会最高タイムでの優勝であった。最近の傾向

として高校チームの活躍が目立っている。来年は大学・高専チームにも奮闘を期待したい。閉会式では各賞授与の後、関東支部長の音頭による「来年もガンバロー」の掛け声により、参加各校が来年の活躍を誓った。

参加された皆様お疲れさまでした。来年のさらなるご活躍に期待します。大会の詳細は関東支部ホームページ <http://www.jisce.or.jp/branch/kanto/> に掲載されています。(正会員 玉井真一(独)鉄道・運輸機構)

第12回インターナショナル サマーシンポジウム (The Twelfth International Summer Symposium)開催



9月18日(土)に日本大学理工学部船橋キャンパスにおいて、第12回インターナショナルサマーシンポジウムが土木学会国際委員会(委員長・・・古田均・関西大学教授)の主催で開催された。このシンポジウムは土木学会の国際活動の一環として、英語での研究成果の発表の機会を設けることを中心に、国際交流と相互理解を深める目的で企画されたものである。1999年から開催され、12回目となる今回は約140名の参加者(外国人学生・エンジニア80名、日本人学生・エンジニア44名、組織委員会委員ほか19名)を得て、7部門・81件の研究発表、基調講演、スタディー・ツアー・グラント

と



写真1 開会式



写真2 森地茂教授による特別講演

招聘者である韓国・モンゴル・トルコ・インドネシアの学生による報告、ならびに懇親会が行われた。また一昨年から論文の質を向上させることを目的として全文査読を実施した。なお今回のシンポジウムは、公益信託「土木学会学術交流基金」の助成を受けて実施された。

シンポジウム当日は、午前・午後合わせて計19の一般講演セッションおよび基調講演が行われた。基調講演は、森地茂・政策研究

大学院大学教授(土木学会元会長)による
 “Development of Infrastructures and
 National Growth in Asia — Current
 Situation and Future Perspectives in Viet
 Nam”と題する講演が行われた。アジアに
 おける今後のインフラ整備の考え方に関する
 話題で、参加者にとって有意義な講演であっ
 たと思われる。また、一般講演での発表におい
 てはどのセッションでも活発な議論がなされ
 参加者相互間の有意義な情報交換ができた
 ものと考ええる。

最後に参加者が一堂に会し懇親会が催さ
 れ、そのなかで優秀発表講演者・受賞者は左
 記のとおり)に賞状と記念品が授与された。
 懇親会での参加者間の活発な交流によって、
 シンポジウムの主目的である国際交流と相
 互理解はさらに促進された。

●優秀発表講演者19名(敬称略)

- Pang Jo Chun (Yonsei University) / S.V.T.
 Janaka Pereira (埼玉大学) / Richelle Zaira (東京
 工業大学) / San Yu Khang (横浜国立大学)
 Nguyen Ba Thuy (埼玉大学) / Kazuki Aoyanagi
 (東北大学) / Hitomi Suzuta (朝日航空) / Junichi
 Yoshitani (国十技術政策総合研究所) / Phan Huy
 Dong (横浜国立大学) / Seto Walyudi (東京大
 学) / Shaphal Subedi (埼玉大学) / Rana Mohan
 Pokharel (埼玉大学) / Jirapat Phornprapha (日
 本大学) / Jia Luo (山梨大学) / Nikko Nestor
 F. Espenilla (De La Salle University) /
 Phongphan Tankaseam (Khon Kaen
 University) / Nguyen Duc Hai (埼玉大学)
 Islam Mohammed Russeid (横浜国立大学)
 Chamjika Eliawala Kankanang (埼玉大学)

(国際委員会 第12回サマージンポジウム組
 織委員会委員長 福田敦(日本大学))

市民生活に密着した学活
 動 — 土木ふれあいフェスタ
 in 札幌 —

さる10月3日(日)札幌市の複合型商
 業施設であるサンピアザ1階の光の広
 場(新札幌駅隣接)にて、「土木ふれあいフェスタ
 in 札幌 くくらしと安全を支える土木」が開
 催された。主催はコンサルタント委員会市民交
 流研究小委員会、昨年の4月の秋田市、12月
 の広島市に引き続き、3回目の開催である。

今回は、北海道開発局、北海道、札幌市お
 よび建設コンサルタント協会北海道支部の後
 援と土木学会北海道支部の協力を得て、パネ
 ル展示(土木の紹介、北海道の土木遺産、札
 幌市のプロジェクト紹介、ハザードマップなど)、
 体験広場(液状化装置やペットボトルを使った
 液状化実験、歩測体験、橋の模型の実験)、図
 書・ビデオの紹介、展示物を見ながらクイズ
 に答えるクイズラリーなどの催しを行った。

会場は新札幌駅近くの複合型商業施設内
 の広場で、多くの人が買い物や食事に訪れる場
 所であったことから、親子連れや若いカップルな
 ど大勢の方々に参加いただくことができた。

体験広場では前回、前々回も実施した液状
 化現象実験装置(砂と水の入った箱を振動さ
 せること)で、液状化現象を視認できる装置)
 のほか、伊能忠敬にちなんだ歩測(自分の歩

幅で長さを測る体験)や、橋の簡単な模型を
 使った載荷実験など、どれも人気が高く、人が
 とぎれることがなかった。また、展示パネルの
 内容をクイズにして三者択一で解答する形式
 のクイズラリーでは、子どもからお年寄りまで
 熱心に取り組んでおり、スタッフに展示内容に
 関する質問をする場面もあった。

開催時間が長いこともあって、来場者数は
 これまでの2倍以上の550名あまり、ま
 た、比較的若い世代が多かったように思われ
 る。来場者の半数以上は、通りがかりの方で
 あったが、回収したクイズラリー解答兼アン
 ケート530通には、多くの意見・感想が記
 述されていた。「楽しかった」、「土木に関する

ことが身近に感じられた」という感想が大半
 であるが、なかには「土木のマイナス面も取り
 あげて」という50代の女性の厳しい意見が
 あったことは真摯に受け止める必要がある。

新聞社やNHKテレビの取材もあり、3
 回目の市民交流会も大盛況に終わったとい
 えよう。

学会活動における市民交流とは、学会の研
 究成果や行政の情報などを市民の立場・視
 線で、わかりやすく発信することがその第一
 歩であることを実感した。今後もこのような
 地道な活動を続けていくつもりである。

(コンサルタント委員会市民交流研究小委員
 会 桜木 洋子)



写真1 展示・クイズラリーの様子

第3回
土木ふれあいフェスタ in 札幌
 ～くらしと安全を支える土木～

体験ひろば (11:00 - 18:00)
 (1) 橋の模型、載荷がはたしていつまで耐えられるのか
 実験に挑戦しよう！
 (2) どうしてトンネルの入口はこんな形？
 (3) 道路の陥没防止に土質改良がどう関係しているのか、
 みんなも自分の足で確かめよう！

クイズラリー
 会場ではクイズラリーが
 実施されています！
 クイズに答えて
 参加者のみなさんへ
 景品がもらえます！

遊びのひろば
 「おもしろい」をテーマに
 いろいろな遊びを用意しています！
 どうぞ、お気軽に参加してください！
 そのほか、いろいろな遊びがあります！

パネル展示・ビデオコーナー
 土木の紹介、北海道の土木遺産、札幌市の
 プロジェクト紹介、ハザードマップなどを
 展示しています！
 土木を楽しく知るためのブースです！

日時：2010年10月3日(日)
 10:00 - 21:00
 会場：新札幌 サンピアザ1F 光の広場

主催：土木学会 北海道支部、北海道、札幌市
 建設コンサルタント協会 北海道支部
 協賛：国土院、国土院 札幌事務所、国土院 札幌事務所
 協賛：国土院 札幌事務所、国土院 札幌事務所

問合せ：土木学会 札幌支部 事務局 011-250-0000

図1 イベント案内チラシ



写真2 イベント会場全景

体験型実験模型の貸し出しを行います！



構造工学委員会では、「委員会活動の成果を社会に還元するとともに、構造工学の素晴らしさ、魅力をアピールし、構造工学に対する理解と関心を深める」ことを目的に、中学生・高校生向けの公開講座を企画し、昨年度実施した(土木学会誌 2010年3月号63頁にて報告)。

この公開講座のアンケートでは、体験型実験が好評であったことから、実験で使用したアーチと重ねばりの体験型実験模型を貸し出し用に製作した。これらの模型を写真1に示す。自らの手でアーチを作成することや、重ね方が異なる3種類のはりのたわみを体で直接感じることで「橋の不思議」が体験できるよになっている。

模型での体験は、橋をはじめとする土木構造物に対する理解につながると考えられ、中高生や一般市民などを対象とした行事で、会員の皆様の積極的な利用をお願いする次第である。

公開講座の報告と模型および貸し出しに関する詳細は、構造工学委員会のホームページ(<http://www.jsce.or.jp/committee/struct/framepage2.htm>)に掲載している。

最後に模型製作にご協力いただいた NEXCO 総研に厚く感謝の意を表す。

(正会員 永田 和寿(構造工学委員会 名古屋工業大学))



(a) アーチ模型(ブロックを組み合わせてアーチを作成)



(b) 重ねばり模型(手前の1つのはりと奥の2つのはりに座ってたわみの違いを実感)

写真1 体験型実験模型

土木学会誌 11月号 正誤表

土木学会誌 2010年11月号において誤りがございましたので、訂正してお詫びいたします。

個所	正	誤
学生が行く今月の土木日本一 連載を終えて 32頁 本文上段6～7行目	北は北海道「小樽港北防波堤」	北は北海道「青函トンネル」